

カリキュラムコーディネーター研修会は、「所属組織のカリキュラムを実際に改善できる人材」を育成することを目的としています。研修会で、話を聞いて、ワークを行っても、実際に変革を起こす力は身につけません。カリキュラムコーディネーターとしての真の力を身につけるためには実践が必要です。そして、実践を続けるためには、その過程で起こってくる、疑問や不安、時には批判など、様々な課題を乗り越えるために力となる仲間が存在が不可欠です。

研修会参加者に目的を達成していただくため、次のような5段階の成長プロセスをご提供します。

成長ステップ	形態	概要	やること	備考
本研修会の支援範囲	初級編 受講証	カリキュラムコーディネーターの役割を知り、アクションプランを策定	①基本的知識の修得 ②一歩を踏み出すアクションプランの策定 ③共に歩む仲間づくり	研修会を受講することで、参加者に受講証を発行。
	実践編	所属組織での実践	①アクションプランを基に所属組織で一歩を踏み出す ②カリキュラムコーディネーターとしての実践的試行錯誤	研修会終了後12か月間のフォロー。 中級編受講までに2年以上の期間が空いても可
一年目以降(希望者のみ)	中級編 認定証	カリキュラムコーディネーターとしての最低限の資質能力があるか確認	①活動結果を持ち寄った相互コンサルテーション ②2~4年の行動計画の作成	カリキュラムコーディネーターとしての最低限の資質能力があるか測定し、基準をクリアしている人に認定証を発行。
	変革編	所属組織での実践	①行動計画の実行 ②カリキュラムコーディネーターとしての実践的試行錯誤	研修会終了後12か月間のフォロー。
	上級編 レポート認定証	本当の変革を生み結果に繋がっているか確認	①成果報告 ②取り組みがうまく行っていない他大学へのアドバイス及び、アドバイス準備を通じた自らの経験への意味づけと体系化	所属組織においてカリキュラムのアセスメント構成に合意し、学部・学科等がチームとしてカリキュラム運営に取り組む状態になっているかを確認し、基準をクリアしている場合にレポート認定証を発行。

研修参加者コミュニティ  
活動報告や悩み相談  
(講師もコミュニティに参加)

参加申し込み

大学・短期大学  
最大2名まで

メールに必要事項をご記載の上、申込先メールアドレス宛にお申し込みください。

必要事項	① 大学名(所属団体)	② 氏名・部署・役職
	③ ご連絡先(電話/メールアドレス)	④ 情報交換会参加の有無
	⑤ 情報を得たいポイント	
	※ 2名参加の場合「氏名・部署・役職」は2名分ご記載ください。 ※ 「情報を得たいポイント」をお送りいただけましたら、できるだけ研修会に反映致します。	
申込先メールアドレス	info@jaedweb.org	
参加費	1人目 50,000円 2人目 32,500円	
振込先	三井住友銀行 兵庫支店 普通 7718369 加)7)レ)ト)イ)ウ)ク)メ)ザ)イ)ン)ガ)ホ)ウ)ダ)ヨ	

- <含まれるもの> 当日資料代金 / お茶・昼食(お弁当を手配) ×2回分  
12ヶ月間の研修参加者コミュニティを通じたフォローアップ費用
- <含まれないもの> 宿泊費 / 情報交換会費3000円程度 (宿泊は個別にご手配ください)

日本高等教育開発協会 (JAED)

Web: <https://www.jaedweb.org> お問い合わせ先: info@jaedweb.org

# カリキュラムコーディネーター 養成研修会 <初級編>

～ 組織がチームとして教育に取り組むための仕組み作り ～

組織がチームとして学生をどう育てるか議論し、その成果を評価し、教育改善に取り組む。本研修会は、貴学において持続的な教育改善の仕組みを確立していく人材養成を目指します。

- 開催日程 2019年5月25日土曜日 10:00 から 26日日曜日 15:20まで
  - 場 所 芝浦工業大学 芝浦キャンパス (詳しくは内面をご参照ください)
  - 対象者 大学職員(教員可) 定員 50名
- 【主催】日本高等教育開発協会 / 理工学教育共同利用拠点  
【共催】株式会社学びと成長しくみデザイン研究所

芝浦工業大学  
教育イノベーション推進センター

本年度より、私立大学等改革総合支援事業でカリキュラムコーディネーターの配置が、求められるようになりました。また新たなことをやらなければならなくなったという声を聴く一方で、これにより学内でのカリキュラムの議論を進めやすくなったというお声も聞くようになってきました。

カリキュラムコーディネーターには、どのような知識と、どのような力が求められるのか。本研修会では、「カリキュラムコーディネーター」に求められる基本的な力を、理論と実践事例の両面から学んだうえで、所属組織に戻ってから実施する具体的なアクションプランの整理まで、参加者同士のワークを通して深めてまいります。

所属組織の教育力を高めるため、学部・学科等がチームとしてカリキュラム運営する体制を本気で確立したいとお考えの方はぜひご参加ください。貴校の議論がスタートするきっかけとなれるよう、しっかり準備をしてお待ち申し上げます。

研修会後も続く12ヶ月間のサポートを通じて、カリキュラムコーディネーターとしてのトレーニングを重ね、中級編・上級編へと実力を高める本格研修会

このような方が対象です

- カリキュラムコーディネーターという役割に、所属組織の教育力を高めるための可能性を感じ、自身がカリキュラムコーディネーターになりたいと考えている方。
- 学部・学科等で教育についてもっとしっかりと議論し、学生にとって学びやすく、学習意欲を引き出せる仕組みを作っていきたいと思っはいるものの、既存のカリキュラムがある中で、どのように議論を組み立てていけばよいか分からない方。
- カリキュラムの成果を点検評価し、改善に繋がりたいが、何をどこまで行えばよいか、具体的にイメージできない方。

参加により期待される変化

- 大学のカリキュラム編成の原理を理論的に説明できるようになり、所属組織のカリキュラムの特徴と課題を抽出した上で、解決方法を提案できるようになります。
- 既存のカリキュラムをスタート地点に、学部・学科等がチームとして教育に取り組む体制を確立していく流れをイメージできるようになります。
- カリキュラムの成果をどのように点検評価し、どのように改善に繋がっていけばよいか、具体的なイメージを持てるようになります。

## 初級編の到達目標

1. 大学のカリキュラムの特徴と編成の原理を説明することができる。
2. 所属組織のカリキュラムの特徴と課題を抽出することができる。
3. カリキュラムマネジメントに関するさまざまな課題解決の方法を提案することができる。

4. 所属組織のアセスメントポリシーを作成することができる。
5. 大学のカリキュラムに関する多様な考え方や実践事例を尊重し、参加者と共に学びあう文化づくりに貢献できる。

## 事前課題

所属組織のカリキュラムの現状と課題を5分程度で話していただきます。そのための準備をお願いします。関連資料を配付したい方は事前に事務局に提出してください。

## 講師



### 佐藤浩章

日本高等教育  
開発協会 会長  
大阪大学 准教授



### 中井俊樹

日本高等教育  
開発協会 副会長  
愛媛大学 教授



### 竹中喜一

日本高等教育  
開発協会 正会員  
愛媛大学



### 桑木康宏

株式会社  
学びと成長しくみ  
デザイン研究所  
代表取締役

## プログラム

### 1日目 ◆ 5月25日土曜日

開場 9:30

＜オリエンテーションと参加者間の状況共有＞ 10:00

所属組織のカリキュラムの特長と課題  
～うちの大学のカリキュラムはここが強み、弱み～ 佐藤浩章

参加者間で各組織のカリキュラムの強みと弱みを共有することから本研修が始まります。改めて、自らのカリキュラムを客観化することが目的です。他大学と比較することによって、見えてくる特徴と課題があります。

＜理論編＞ 11:10

大学におけるカリキュラムの特徴と編成原理  
～編成の視点と制約条件を理解する～ 中井俊樹

カリキュラムは、大学の教育理念や教育目的にそって大学教職員が主体的に編成します。大学におけるカリキュラムの構成要素を把握し、カリキュラムを編成する上でのさまざまな視点と制約条件を理解します。

ランチタイム：班別交流＜お弁当を準備しています＞

＜理論編＞ 13:00

カリキュラムマネジメントの組織体制  
～編成、実施、評価、改善を支える仕組み～ 中井俊樹

適切にカリキュラムが運営されるには、教育の論理だけでなく運営の論理が重要になります。カリキュラムマネジメントの考え方とその具体的な組織体制のあり方を理解します。

＜実践編＞ 14:10

カリキュラムの設計  
～構造化して学習成果に繋げる～ 佐藤浩章

カリキュラムマネジメントの出発点はカリキュラムの設計にあります。カリキュラムを設計し直す際には、原理にのっとって作業を進める必要があります。特定個人や集団の利害が優先されることがあってはなりません。学生中心、学習成果を確実にもたらす設計手順を学びます。

＜実践編＞ 15:20

カリキュラムの運用  
～期待された学習を導く～ 竹中喜一

カリキュラム・ポリシーに沿って教員が授業を行い、学生が意図どおりに履修をしてもらうにあたり、さまざまな課題に直面します。ここでは、カリキュラムの運用にかかる課題を整理し、それらを解決するための方法を身につけます。

＜実践編＞ 16:30

カリキュラムの評価と改善  
～学習の過程と成果を多面的に捉える～ 竹中喜一

現状のカリキュラムを改善するためには、適切な基準や方法で学習の過程や成果、そして運用方法を評価する必要があります。データに基づくカリキュラムの多様な評価方法や、その結果を改善に向けた意思決定につなげるための方法を習得します。

＜演習＞

カリキュラムの課題解決案を作成する  
～カリキュラムコーディネーターとしての第一歩～ 佐藤浩章

これまで学んだことを踏まえて、学内で何から始めるのか、具体的なアクションプランを作成します。何が課題であり、誰に、いつ、どのような働きかけを行うのか、その成果をどのように確認するのかを考えます。

18:10 終了 ＜希望者は情報交換会へ＞

翌日までの宿題：課題解決案を作成

### 2日目 ◆ 5月26日日曜日

開場 9:00

＜共有＞ 9:30

カリキュラムの課題解決案の発表と共有①  
～参加した意味を確認し同様の大学の仲間と約束をする～ 佐藤浩章

アクションプランを紙上に終わらせず、実行に移すためには強い決意と、ともに困難に立ち向かう仲間が必要です。作成したアクションプランを仲間と共有し、いつまで行動を起こすのかを宣言します。

＜実践編＞ 10:40

カリキュラム・マネジメントの動向と事例  
～「学内合意の進め方」と「評価・改善の取組」～ 桑木康宏

どう合意を形成し、議論を組み立てると、教員が主体的に関わり易くなり、学部・学科等がチームとして動き始めるのか。本セッションでは、実際に動き始めた大学の事例をご紹介することを通じて、どの大学でも利用できるフレームワークを示します。

＜演習＞ 11:40

カリキュラムの課題解決案をブラッシュアップする  
～実践事例を踏まえて～ 佐藤浩章

優れた実践事例を踏まえて、アクションプランを一人ないしは職場の同僚とブラッシュアップします。

ランチタイム：班別交流＜お弁当を準備しています＞

＜共有＞ 13:00

カリキュラムの課題解決案の発表と共有②  
～参加した意味を確認し同様の立場の仲間と約束をする～ 佐藤浩章

同様の大学の仲間だけではなく、同様の立場の仲間にもまでネットワークを広げます。カリキュラム改革を進める際には、「立場」によって異なるアプローチが必要になるためです。

＜実践編＞ 14:10

組織的なカリキュラムの課題解決  
～適切な方法で教職員を牽引する～ 中井俊樹

カリキュラムの課題を解決するには教職員の協力が必要です。そのためには、教職員がどのような力で動くのかを理解した上でリーダーシップを発揮する方法を身につけます。

＜まとめ＞ 14:40

研修を終えて  
～振り返りと全体のまとめ～ 中井俊樹

2日間の全体の振り返りに加え、裏面「支援プロセス」記載の「研修参加者コミュニティ」について、紹介を行います。